

会員数(53・3・1現在)

逗子地区 107 名

葉山地区 200 名

大船地区 73 名

合計 380 名

吟道月報

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可

神奈川 碩心会 発行

53・3・5

第 68 号

編集

加藤 冽風

私のすきな詩

千葉 劔風

与えられた題名が、「私の好きな詩」ということでありますが、私は、未だに未熟者であり、どの詩が好きで、どの詩がきらいとか、とりあげて、きめつけるほど、決して習得もいたしておりません。いささか、皮肉めいた言い方にとられましようが、これが、私の偽らざる本当の気持です。もっとも、習得し、吟じ、そして吟の眞価にふれたい、上手下手など問題にせず心からほとほゆる吟がでるようになるにたい、そのみ願っている私の毎日です。そのような意味からすれば、私は、これを

吟するとき、本当に心の奥底から感動し、涙湧かして止まることを知らない詩が一つだけあります。それは源八岳先生(本名は祖宗範木村岳風先生のこと)作「異国の丘」です。想い出せば、昭和十四年十二月十日逗子駅頭から「万々万」の声に送られ、甲府連隊に入隊した私は、その後十日ほど、北支の地において練兵されることになり、その後、戦局あわただしくなり、引続く召集で、殆んどこの地を駆戦することにな

リ、その間に敵弾を受けて重傷を負い、快方に向つては再び戦場に立つなど、六年有余を危地に立たされました。終戦直前には、最後の関東軍の一員として北朝鮮に在り、敗戦と決つて、生駒をさらし、昭和二十年十一月にはシベリヤ聖由で東欧エラブラ軍収容所へ送られました。このエラブラは地球儀にもてておりますが、モスクワ東南方八十キロぐらゐのところであつたようです。シベリヤ鉄道をモスクワに向い、ウラル山脈をこえて、しばらく走り、カザンというところから、二、三日行程で歩いて到着するところ、ここで丸二年間労役に服したのです。

いわゆるオニ次大戦が、日本の敗北に終わったとき、北朝鮮及び満蒙の地に在つた多くの軍人、同胞はソ連軍によつて、遠くシベリア又はその奥地方面が酷寒の地に捕えられ、送られてしまつたのです。そして苛酷なまでの労役に服させられたのです。そして来る日も来る日も、当てもなく帰国の夢をみてい

ました。そうした中において、労作の合間に皆で故郷の歌を唱い合い、また勝手に吟じたリしたものでも、そして、遂に食料も殆んど与えられないに等しいような状況の中において、同胞は次々と過労と病から倒れて、再び日本の地をふむことができなかった者も数知れない状況だったのでした。正にこの世の地獄図でした。

この詩を吟ずるとき、一行目も満足に発声できないほどぐつと胸に迫ってくるものがあります。レカレ、涙の中に吟じ終えたとき私は今は無き同胞戦友諸君に果し得なかつたことの何萬分の一を代つてやり遂げたという安堵感に似たものを感ずるので、これを吟ずるとき、想いは再び凍土の彼等と同じ心境になり、心からの吟となつてゐることが分るのです。このような戦争体験の方は、沢山おられることではようが、果して何人の方が、こうした名詩のあることをご存じてでしょうか。

吟の通に入っていたからこそ、私は全く感動的
的な名詩にめぐり合いました。

閑話休題 //

というわけで、私はこうした感動的な吟詠が、すべての詩について、その内容を自己の心として吟じ上げられるときが、来たら素晴らしいことだろうなどと、欲張ってきている此頃です。いわゆる上手下手より、立派に吟じよという諸先達の教への意味が、いまさらのように大切なことだと感じている毎日です。

(逗子A支部II総務部長)

全国吟道大会盛大に開催される

去る二月十九日(日)神奈川県立県民ホールにおいて開催された第七十三回全国吟道大会は二千五〇〇名収容の大会場に超満員の会員が集い、式典には長洲県知事、神奈川県教育長等の祝辞があり、又、構成吟「神奈川の鼓動」が県本部常任理事の吟と詩舞の構成によりス

ライドと照明の見事な演出で紹介され、万雷の拍手を呼んだ。当碩心会は百十余名の大会吟団をもつて「碩心会の詩」を力一杯吟じ全国大会参加の歴史に一頁をしるした。

大会の呼びもの合吟コンクールには地元、県本部傘下の会が一位から三位をしめ、県本部の団結と、吟力を遺憾なく発揮した。合吟コンクール 一位 東芝横須賀工場吟詠部

二位 湘南吟詠会

三位 町田吟詠会

四位 長野岳風会

五位 東京玉峰吟詠会

高役者審査に全員合格

去る三月十二日県本部で行なわれた高役者の審査会において碩心会より、七段五名、八段二名、皆伝二名が受審され、全員合格いたしました。おめでとうございます。

なお皆伝の先生方の雅号はそれそれのとおり

り改められました。

井沢潮岳 (朝風改め)

小峰桜岳 (順風改め)

第四回 願心会温習会の開催

とき。六月十一日(日)九時半〜四時半

ところ。蓮子市立図書館ホール

内容。(一) 会員吟詠 (二) 許証授与 (三) 立体吟詠 (四) 合吟コンクール

◎合吟コンクール要領

▼ 出吟資格 奥伝以下

▼ 出吟人員 四名又は五名を一組とする

(何組でも可 但し同

一人が重複して出吟せぬ

こと)

▼ 課題吟 一 静夜思 (李白)

二 偶 成 (朱熹)

三 九月十三夜陸中作 (上杉謙信)

一 兩笠山 (乃木希典)

一、楓橋夜泊 (張 継)

◎ 昼食のお弁当 (三七〇円) の希望者は支部毎にとりまとめて五月末までに総務に申込むこと。

◎ 各支部毎の出吟割当時間 (絶句は二分、律詩は四分の割で計算) と役員数は次のとおり。なお立体吟を出される場合は各支部の割当時間内で行うこととしますが、若干の追加時間を考慮しますので総務に申し出て下さい。

支部名	割当時間	役員	人員
蓮子	14分	進行役	3人
山	6分	連絡役	2人
山	10分	連絡役	3人
山	4分	連絡役	1人
山	12分	連絡役	3人
山	12分	連絡役	2人
山	6分	連絡役	5人
山	10分	連絡役	2人
山	8分	連絡役	3人
山	12分	連絡役	1人
山	6分	連絡役	3人
山	2分	連絡役	2人
山	10分	連絡役	3人
山	8分	連絡役	2人
山	6分	連絡役	2人
山	6分	連絡役	2人
山	10分	連絡役	3人
山	4分	連絡役	1人
山	4分	連絡役	1人

(支部)

出吟名簿は三月末まで総務に提出)

横須賀第二地区大会

と き。六月二十五日(月) 九時半～四時半

と ころ。横須賀市田浦「術科学校」

▼ 碩心会割当 連吟コンクール(律詩) 二題

立 休 吟 (詩舞律詩) 三題

独吟、合吟 (絶句) 四十二題

▼ 支部別割当 次のとおり

支部名	出吟題枚
子山	3題
返ヶ枝沼堀一、長下吟部大、戸松建山銀上蓮元木詠風	121251121211231121112111
合 計	42

▼ 登食(弁当300円)希望の方は支部毎にとりまゝの送料まで申込をこ

▼ 出吟料、無料 (碩心会本部で負担)

▼ 申込限、四月二十日 総務まで

(電話でも可) 〇四六八一七三〇四五八五総務

(千葉まで)

会員の動き

★新入会員

銀詠支部 田中 正二 返子市返子五一

(電) 七一〇七

豊島 清子 二一六二

(タ) 七一〇四二一

桜山A支部 浅沼 二葉 横須賀区月見台三九

(タ) 五一三二一五六四二

堀内支部(E) 村形キミ子 兼山町一色三八八

(タ) 七五〇六八一

諏訪支部 松井 正治 横須賀市秋谷二、三三五

(タ) 四六八一五六一九二二三

★退会会員

73 返子A支部 源波 春風

244 銀詠支部 山本 太郎

210 杉井 唯衛

✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
290	305	362	318	312	252	
長柄支部	吟甫支部	一色C支部				堀内支部(C)
			(B)	(B)		
西星	萩原	坂入	守谷	矢島	矢島	竹衛
和明	翠泉	正泉	尚己	弥一	匠泉	弘美
						翠山

◎ 教本入れ手提袋の注文について

去る二月十九日に開催された全国大会の参加者に記念品として教本入れの手提げ袋（布製で学院のマーク入り）が支給されました。不参加者で希望される方は総務でとりまとめ注文いたしたいと思っておりますので支部ごとにまとめてお申出下さい。

逗子市詩吟詩舞連盟
詩吟詩舞発表大会

と き。六月四日（日）十三時三〇分より
と ころ。逗子市図書館ホール

訂 正

六十六号（五十三・五）中、住所変更で、(24) 逗子A支部「山内俊風」とあるのは「内山俊風」並びに、同号中の退会会員の内、一色C支部 石木操風、同支部 行谷光山 西氏は一色A支部の誤りでした。
お詫びして訂正いたします。